

## 2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

国・地域 [ ラテンアメリカ・チリ ]

学校名 [ Liceo Bicentenario de Excelencia Domingo Ortiz de Rozas ] [ 中1～高3 30名 ]

担当教諭名 [ 吉田 大祐(JICA)・Silvana ]

日本学校名 [ 追手門学院中・高等学校 ] 担当教諭名 [ 田橋 知直 ] ( 1年A組 26名 )

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	環境委員会	アートマイルプロジェクト	約20時間

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	あらゆる違いを越えて、共生する
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	違いが強調され、争いが生まれる時代だけれど、そんな違いを越えて、共生する意思を示したい。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チリの学校では初めてのアートマイルプロジェクトへの参加でかつ派遣校でも初めての取り組みであったが、無事日本の学生たちと協力して、素晴らしい作品を完成させることが出来た。</li> <li>・教師や生徒が外国との交流の価値に目を向ける機会になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チリの学校の予定上、チリから先に壁画を作成する必要があったため、完成品はそのまま日本の学校にわたることになった。いつ、どのようにチリ側に共有するのか、手段をまとめておくとよかった。</li> <li>・時差で直接の交流が難しい分、もっとラフに交流できる工夫があるとよかった。</li> </ul>

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
最後の作品を完成させる段階になって、より環境の問題や日本の学生との交流に当事者意識を持つようになった。丘によって閉ざされた町で、外部との交流がほとんどない生徒達であったが、積極的に海外との交流を希望するようになった。	時差が大きく、リアルタイムでの交流はできなかったため、なかなか日本の学校との協働が実感しづらい状況であったが、作品を見て、文化を越えて協働するこのプロジェクトのすばらしさを実感するようになっていった。教師自身も日本や海外への交流を希望するようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	9月	全体で日本の文化や宗教について学び、個人で日本の社会問題について調べ、パワーポイントにまとめる。日本の生徒のチリの社会問題に関する調べ学習にコメントを書く。	パワーポイントにまとめる作業に苦戦する生徒が多かった。調べ学習自体は10人ほどの生徒で楽しんで積極的に行っていた。	委員会3
共有 相手と意見交換	10月	日本の学生が調べたチリの社会問題からテーマを絞り、チリの自然災害とゴミ問題について調べ学習。	10月上旬にあった大きな一大ダンス行事GALAを機に、活動に参加するコアメンバーが5～6名と固定化されていった。参加生徒は積極的に話し合いながら活動をしていた。	委員会2
融合 メッセージ作成	11月	チリの自然災害とゴミ問題について、学校でできることと個人でできることをグループでまとめ、発表。発表の内容を日本の生徒に共有。	積極的に話し合っって意見を交換しながら、考えをまとめていた。	委員会3
創造 壁画制作	12月	チリ側でテーマとデザイン案について話し合い、日本側がブラッシュアップ。ラフ案が出来上がり、作業をしながらデザインを詰めていった。	夏休みに入ってしまったため、参加する生徒の数は日によってばらつきがあったが、意欲的に活動を行っていた。	委員会10
評価 振り返り 自己評価	2月	日本の学校から送られてきた完成品の画像をパソコンで鑑賞しながら、作品と活動全体の振り返りを行い、日本側に共有をした。	日本側の絵を細かく見て、面白いところや疑問を感じたところを和気あいあいと話し合っていた。完成品を見て、1年間で最もモチベーションが高まっていた。	委員会2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	4	壁画の内容を見て、構成する文化の違いももちろんだが、絵のかき方に日本とチリは全く違うと驚いていたから。
主体的に考え行動する力	4	はじめは時間がかかったグループでの調べ学習も、各々が自分から自分の役割を立候補してスムーズに作業を行うことが出来るようになっていたため。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	2	ラテンアメリカが、基本的に物事をおだやかに受容する文化のため、あまり批判的な思考が発揮される場面は少なかったように思う。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	日本側とのやり取りに、責任を持って取り組む様子が見られた。また、「日本の子たちはチリのこれが珍しいのではないか」と相手の立場を想像して、各場面で議論を行っていたため。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	メッセージについて話し合うと、すぐに「違いを越える」という言葉が生徒から出てきて、デザイン作成もすらすらと意見が出てきたため。